

# ポルトガル月報

2019年10月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

## 【主要ニュース】

【内政】 ★ポルトガル共和国議会選挙の実施／★第二次コスタ政権発足

【外交】 ★カヴァコ・シルヴァ前大統領が即位の礼に出席

【経済】 ★DBRS、ポルトガル国債の格付け見直しを引き上げ

## 内政

### ●フレイトス・ド・アマラル元副首相の逝去

10月3日、ポルトガルの民主化の父の1人とされるディオゴ・フレイトス・ド・アマラル氏が78歳で逝去した。アマラル氏は、民衆党(CDS)党首(1984~1983年、1988~1992年)、副首相兼外務大臣(1980年)、副首相兼国防大臣(1981~1983年)、欧州キリスト教民主同盟党首(1981~1982年)、国連総会議長(1995~1996年)等を務めた他、ポルトガルの歴史及び政治に関する多くの著作を残している。

### ★ポルトガル共和国議会選挙の実施

10月6日、ポルトガル共和国議会選挙が実施され、社会党(PS)は単独過半数には及ばなかったものの、38.20%の得票率(108議席)で第一党の地位を確保した。最大野党社会民主党(PSD)は、29.18%(79議席)を獲得し、10議席を失った。リオPSD党首は、PSDにとって同結果がそれほど悪くないとし、PSD党首のポストを継続する意向を表明した。前政権でPSと閣外協力関係にあった左派政党に関し、左翼連合(BE)は19議席数を維持した一方で、統一民主同盟(CDU)として選挙に出たポルトガル共産党(PCP)及び緑の党(PEV)は、5議席減となった。また、人と動物と自然の党(PAN)は1議席から4議席と躍進した他、新しい3つの政党(シェーガ党(CH)、リベラル主導党(IL)及び

自由党(Livre))がそれぞれ1議席を獲得した。今次選挙において民衆党(CDS)は18議席から5議席と大幅に議席を減らしたため、クリスタスCDS党首は、党首の座を退くと発表した。

22日、選挙管理委員会は、選挙の最終結果を官報により公表した。投票率は48.60%で、政党別の得票率及び議席数は以下のとおり。

政党	得票率	議席数
社会党(PS)	38.20%	108
社会民主党(PSD)	29.18%	79
左翼連合(BE)	10.01%	19
統一民主同盟(CDU)(*)	6.66%	12
民衆党(CDS-PP)	4.44%	5
人と動物と自然の党(PAN)	3.49%	4
シェーガ党(CH)	1.35%	1
リベラル主導党(IL)	1.35%	1
自由党(Livre)	1.14%	1

(\*) ポルトガル共産党(PCP) + 緑の党(PEV)

(注) ポルトガル国会は一院制で、定員は230議席。

### ●共和国議会選挙に当選した各党への意見聴取及びコスタ社会党書記長の次期首相指名

10月8日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、6日に実施された共和国議会選挙の結果を踏まえ、議会に議席を確保した10党の代表を官邸に招き、次期首相指名に関する意見聴取を行った。大統領との協議後の記

者会見において、各党代表は次のとおり発言した。

(1) 自由党 (Livres) (ジョアシネ・カタル・モレイラ議員) : 政府との交渉は可能であるが、第2次「奇妙な仕組み (ジェリンゴンサ)」に参加する意向はない。過去4年間、初回の仕組みを構成した政党がまず話し合うべきである。他方、社会的正義及び気候変動等、Livresの選挙プログラムに含まれている課題については、社会党 (PS) に協力することは可能である。

(2) リベラル主導党 (IL) (カルロス・ギマランエス・ピント党首) : 次期首相にコスタ社会党書記長を指名することは支持しないが、代替案がないため、反対はしない。ILは社会主義に反対する政党であり、拡大された「奇妙な仕組み」に参加する意向はない。

(3) シェーガ党 (CH) (アンドレ・ヴェントウーラ党首) : コスタ現首相が次期首相に指名されることは残念であるが、代替案がない。コスタ政権を支持しないが、我々の関心事項である警察官の権利回復及び刑法の改正等に関する件においては、協力は可能である。

(4) 緑の党 (PEV) (ジョゼ・ルイス・フェレイラ代表) : 政府との間にケースバイケースの交渉は可能であるが、2015年のように全会期にわたる協力の意向を示す旨の合意書に署名する意向はない。

(5) 人と動物と自然の党 (PAN) (アンドレ・シルヴァ代表) : PANは、今後4年間のための閣外協力又は連立政権を組む意向はないが、立法手続又は政府予算案の限定的な協力をすることにより、安定した政権のために貢献したい。次期政権発足前までに社会党が現政権において閣外協力を得た政党との間で合意に至り、安定を保証することも期待している。

(6) 民衆党 (CDS) (アスンサン・クリスタス党首) : 選挙において、最多の得票を獲得した社会党のコスタ書記長が次期首相に指名されることに反対はしないものの、CDSは、議会において、今後も建設的野党としての役割を果たしていく。

(7) ポルトガル共産党 (PCP) (ジェロニモ・デ・ソウザ書記長) : PCPは、PSとの間に書面又は口頭での合意をする意向はない。我々の選挙プログラムに基づき、先進的政策が継続されるよう、建設的な立場を維

持するが、我々にとって負の影響を及ぼす取組に関しては反対の意見を表明する。政府予算案及び立法手続もケースバイケースの交渉を行う。

(8) 左翼連合 (BE) (カタリナ・マルティンス代表) : BEは、前政権の安定性を担保したのはPSとの書面による閣外協力の確約であったと考える。次期政権とはかかる書面による合意を結ばないとしても、次期政権の安定のため、全会期にわたり協議する意向である。PS政権が過去4年間安定した理由は、PSが政府綱領を提出する前に閣外協力関係にある政党と協議し、その結果が同綱領に反映されたためである。今回PSと合意する場合、BEは労働者の権利回復及び国家保健制度 (SNS) 等の公的投資の増加を最優先する。

(9) 社会民主党 (PSD) (レイ・リオ党首) : PSは、PCPとBE、又はこのうち1党のみと左派の過半数を確保することとなるであろう。PSとBE間の合意内容によるが、PSDは、中長期の構造改革に関し、PSと協力することは可能である。ポルトガルの発展を妨げている司法、政治制度、社会保障、地方分権化分野の改革は主要2政党の支持なしでは実現できない。

(10) 社会党 (PS) (カルロス・セザル党首) : 有権者がPSに相対過半数を与えたというメッセージは理解した。PSの単独過半数を防ぐことを目標にしたBE及びPCPは、今後4年間又はせめてポルトガルがEU議長国を務める2021年上半年期まで安定した政権を保証する責任がある。PSとしては、連立政権という形の協力は論外であるが、安定した閣外協力を保証するためにそれぞれのパートナーと書面なり口頭なりでの合意をすることが重要である。特に政権安定のため、政府予算案の可決が保証されることは必須である。PSは左派各党を優先的パートナーとしているが、構造改革に関しては、PSDの声も聞くべきである。

8日夜、10党の意見聴取を終えた後、レベロ・デ・ソウザ大統領は、コスタPS書記長と協議し、同書記長を次期政権の首相に指名した。大統領との協議後、コスタ首相は、記者団に対し、左派各党との合意が理想的であるが、今後4年間の政権安定を保証するため、BEと

のみ合意することも可能であるものの、左派政党との合意がなくても、次期政権の発足に影響はなく、また、内閣不信任決議が可決されるためには全ての政党がPSに反対する必要があるということは政権に自然な安定性をもたらす要素となっていると述べた。

9日、コスタ首相及び社会党幹部は、左派各党（自由党、人と動物と自然の党、緑の党、共産党及び左翼連合）の本部を訪問し、新政権発足に向けた交渉を開始した。

10日、社会党本部において、政治委員会が招集され、会合後のプレスリリースにおいて、PSは、左派各党との協議結果を踏まえ、書面での合意は行わないものの、政府予算案等政権の安定に関わる案件に関しては、事前の交渉を行うと発表した。

### ●共和国議会議長の再選

10月25日、第14会期共和国議会の第1回本会議が召集され、178票（投票総数230票）の絶対多数を獲得したフェロ・ロドリゲス氏が議長に再選された。

### ★第二次コスタ政権発足

10月26日、アジューダ宮殿にて第二次アントニオ・コスタ社会党政権の就任式（首相及び19大臣、50副大臣）が行われた。就任後の演説において、レベロ・デ・ソウザ大統領は、ポルトガル国民からの大きな期待に応えるには厳しい財政状況である旨述べ、新政権は集中と選択、優先順位付けを行った上で国民に対してははっきりとした回答を示し、特定の人やグループの利益でなく、国益を優先することが重要である旨述べた。これに対し、コスタ首相は、「4年前の最大の課題は緊縮財政に耐えた国の新たな1ページをめぐることであったとしたら、今後4年間の課題は持続可能な繁栄を社会全体で分かち合うことであり、より良い国へと成長できる可能性があるからこそ、プレッシャーも非常に大きい」と述べ、今次政権の4大優先的課題として、気候変動対策、人口減少対策、デジタル移行及び社会的不均衡の改善を指摘した。

26日午後、新政権初の閣議が開催され、政府綱領が承認された。同綱領は、PSの選挙プログラムの内容を柱にしつつ、左派各党の要望を満たすため、気候変動、社会正義及び欧州とアフリカとの関係等に関する政策

が含まれている。

30～31日、同綱領は共和国議会での審議を経て承認された。

第二次コスタ政権の閣僚名簿は以下のとおり。

### 首相：アントニオ・コスタ

国会担当副大臣：ドゥアルテ・コルデイロ

首相担当筆頭副大臣：ティアゴ・アントウネス

### 経済・デジタル移行大臣：ペドロ・シザ・ヴィエイラ

経済担当筆頭副大臣：ジョアン・ネヴェス

観光担当副大臣：リタ・マルケス

### 商業・サービス・消費者保護担当副大臣：ジョアン・トーレス

デジタル移行担当副大臣：アンドレ・デ・アラガン・アゼヴェード

### 外務大臣：アウグスト・サントス・シルヴァ

欧州問題担当副大臣：アナ・パウラ・ザカリアス

外務・国際協力担当副大臣：テレーザ・リベイロ

### ポルトガル在外コミュニティ担当副大臣：ベルタ・ヌネス

国際化担当副大臣：エウリコ・ブリリヤンテ・ディアス

### 閣議大臣：マリアーナ・ヴィエイラ・ダ・シルヴァ

閣議担当副大臣：アンドレ・モシュ・カルダス

市民権・平等担当副大臣：ローザ・モンテイロ

### 社会統合・移民担当副大臣：クラウディア・ペレイラ

### 財務大臣：マリオ・センターノ

財務担当筆頭副大臣：リカルド・モウリーニョ・フエリックス

予算担当副大臣：ジョアン・レアン

### 税務担当副大臣：アントニオ・メンドンサ・メンデス

国庫担当副大臣：アルヴァロ・ノーヴォ

### 国防大臣：ジョアン・ゴメス・クラヴィーニョ

国防担当筆頭副大臣：ジョルジェ・セグーロ・サンチェス

人材・退役軍人担当副大臣：カタリーナ・サルメント・カストロ

## **内務大臣：エドゥアルド・カブリタ**

内務担当筆頭副大臣：アンテロ・ルイス

内務担当副大臣：パトリシア・ガスパル

## **法務大臣：フランシスカ・ヴァン・ドゥーネン**

法務担当筆頭副大臣：マリオ・ベロ・モルガド

法務担当副大臣：アナベラ・ペドロージョ

## **国家刷新・行政大臣：アレシャンドラ・レイタン**

イノベーション・行政刷新担当副大臣：マリア・デ・ファティマ・フォンセカ

行政担当副大臣：ジョゼ・コウト

地方分権化・地方自治体担当副大臣：ジョルジェ・ボテリョ

## **企画大臣：ネルソン・ソウザ**

企画担当副大臣：ジョゼ・ゴメス・メンデス

## **文化大臣：グラッサ・フォンセカ**

文化遺産担当筆頭副大臣：アンジェラ・フェレイラ

映画・視聴覚・メディア担当副大臣：ヌーノ・アルトウール・シルヴァ

## **科学技術・高等教育大臣：マヌエル・エイトール**

科学技術・高等教育担当副大臣：ジョアン・ソブリーニョ・テイシェイラ

## **教育大臣：ティアゴ・ブランダン・ロドリゲス**

教育担当筆頭副大臣：ジョアン・コスタ

教育担当副大臣：スザナ・アマドル

青年・スポーツ担当副大臣：ジョアン・パウロ・レベロ

## **労働・連帯・社会保障大臣：アナ・メンデス・ゴディニョ**

雇用・職業訓練担当筆頭副大臣：ミゲル・カブリタ

社会保障担当副大臣：ガブリエル・ガメイロ・ロドリゲス・バストス

障害者社会参画担当副大臣：アナ・ソフィア・アントウネス

社会貢献担当副大臣：リタ・ダ・クニャ・メンデス

## **保健大臣：マルタ・テミード**

保健担当筆頭副大臣：ジャミラ・マデイラ

保健担当副大臣：アントニオ・ラセルダ・サレス

## **環境・気候変動大臣：ジョアン・ペドロ・マトス・フ**

## **エルナンデス**

エネルギー担当筆頭副大臣：ジョアン・サルダーニャ・アゼヴェード・ガランバ

環境担当副大臣：イネス・ドス・サントス・コスタ  
自然保護・森林・領域保全担当副大臣：ジョアン・カタリーノ

交通施策担当副大臣：エドゥアルド・ピニエイロ

## **インフラ・住宅大臣：ペドロ・ヌノ・サントス**

通信担当筆頭副大臣：アルベルト・ソウト・デ・ミランダ

インフラ担当副大臣：ジョルジェ・デルガド

住宅担当副大臣：アナ・ピーニョ

## **領土結合：アナ・アブルニョーザ**

地域開発担当筆頭副大臣：カルロス・ミゲル

内陸部振興担当副大臣：イザベル・フェレイラ

## **農業大臣：マリア・ド・セウ・アルブケルケ**

農業・地方開発担当副大臣：ヌーノ・ティアゴ・ドス・サントス・ルッソ

## **海洋大臣：リカルド・セラン・サントス**

漁業担当副大臣：ジョゼ・アポリナリーオ

## **外交**

### **●レベロ・デ・ソウザ大統領のギリシャ訪問**

10月10～11日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、アテネで開催された第15回「アライオロス・グループ」首脳非公式会合に出席するため、ギリシャを訪問した。同会合では、シュタインマイアー独大統領、ラデフ・ブルガリア大統領、キタロビッチ・クロアチア大統領及びマッタレッタ・イタリア大統領等が参加し、経済危機、移民難民問題、欧州の安全保障等に関する意見交換が行われた。

「アライオロス・グループ」の初回会合は、ポルトガルの当時のジョルジェ・サンパイオ大統領のイニシアティブにより、2003年にアレンテージョ地方のアライオロス村で開催された。次回会合は、2020年10月にポルトガルのリスボンにて開催される予定。

### **●次期欧州理事会議長のパルトガル訪問評議会**

10月11日、シャルル・ミシェル次期欧州理事会議

長がポルトガルを訪問し、コスタ首相と欧州主要機関の新サイクル、2021年上半期にポルトガルが努めるEU理事会議長国等に関する意見交換を行った。

#### ●コスタ首相が欧州理事会に出席

10月17～18日、コスタ首相は、ブリュッセルで開催された欧州理事会に出席した。同理事会では、EUの次期多年次財政枠組み、次期欧州委員会の優先課題及び英国のEU離脱等に関する議論が行われた。

#### ★カヴァコ・シルヴァ前大統領が即位の礼に出席

天皇陛下の即位を国内外に広く知らしめる儀式、即位の礼が22日に執り行われ、ポルトガルからはカヴァコ・シルヴァ前大統領及び夫人が即位礼正殿の儀、饗宴の儀及び23日行われた安倍総理夫妻主催晩餐会に出席した。

### 経済

#### ★DBRS、ポルトガル国債の格付け見通しを引き上げ

10月4日、カナダの格付会社DBRSは、ポルトガル国債の信用格付を投資適格級の2段階の「BBB」から「BBB (high)」に1段階引き上げ、格付見通しは「安定的」とした。

#### ●長期国債の入札

10月9日、ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、15年物長期国債として7億5,000万ユーロ分(利回りは0.490%)発行した。

落札額は18億5,500万ユーロ(応札倍率2.47倍)となった。

#### ●シーネス港の新コンテナターミナル建設に関する国際入札の官報掲載

10月14日、シーネス港の新コンテナターミナル建設に関する国際入札が官報に掲載された。プロジェクト計画書の提出期限は2020年7月、入札の結果発表は2020年第3四、建設工事は2021年に開始される予定。

#### ●政府が2020年度暫定予算案を欧州委員会に提出

10月15日は、ポルトガル政府は、安定化プログラムの一環としてユーロ圏の加盟国に義務づけられてい

る次年度の政府暫定予算案を欧州委員会に提出した。

ポルトガル国内で審議される2020年度政府予算案は、12月15日までに共和国議会に提出される予定。

#### ●短期国債の入札

10月16日、ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、3か月物短期国債として3億5,000万ユーロ(平均利回りは-0.475%)及び11か月物短期国債として9億ユーロ(平均利回りは-0.450%)発行した。落札額は、3か月物短期国債が12億8,000万ユーロ(応札倍率3.66倍)、11か月物短期国債が15億6,700万ユーロ(応札倍率1.74倍)となった。

#### ●国家通信庁(ANACOM)がオークションを通じて5Gの営業許可を交付すると発表

10月23日、ポルトガル国家通信庁(ANACOM)は、2020年4月に予定されているオークションを通じて次世代通信規格5Gの営業許可を交付すると発表した。

(了)